

格助詞「に」とそれに対応する韓国語

—小説『夏の庭-The Friends-』を中心に—

大内 彩*

(e-mail: ouchi@bu.ac.kr)

目次

1. はじめに
 2. 先行研究
 3. 考察対象・方法と分析
 4. まとめ
-

1. はじめに

日本語の格助詞「に」は多様な意味機能があるため、日本語学習者にとって習得が困難な項目の一つである。韓国語にも日本語の「に」と類似した意味機能を持つ助詞が存在するが、それぞれの言語の助詞の意味機能が完全に対応しているわけではない。そのため、韓国語を母語とする日本語学習者にとって、学習の際に注意が必要である。本稿では日本語の格助詞「に」と、それに対応する韓国語の助詞について小説の文を分析対象とし、日本語の助詞「に」が韓国語の訳書においてどのように翻訳されているのかを調査し、またそれらの助詞の特徴について明らかにすることが目的である。

2. 先行研究

格助詞「に」の意味機能については現在まで様々な研究が行われてきた。本稿では「に」の意味機能について言及されている、松田・斉藤(1992)、杉村(2002)、朴善姫

* 白石大学 語文学部 招聘講師

(1998)、朴奉相(1998)における「に」の分類を<表 1 >1)のようにまとめた。

<表 1 > 格助詞「に」の分類

松田・斎藤	杉村	朴奉相	朴善姫	例文
具体的・抽象物の存在位置	存在の場所 <位置>	存在の場所	存在する場所	教室 <u>に</u> 学生がいる。
着点	移動の着点	到達点・到着点	帰着点や方面	学校 <u>に</u> 行く。
所有物	所有者			私 <u>に</u> 子供がある。
動作や事態の時、順序	時間<時点>	動作・作用の時	動作・作用の行われる時・場合	私は、二年前 <u>に</u> 日本へ来ました。
			割合や割り当て	私たちは一日 <u>に</u> 三度ご飯を食べる。
変化の結果	変化の結果	変化の結果	変化の結果	水が氷 <u>に</u> なる。
				息子を医者 <u>に</u> する。
受け取り手・受益者	受益者			わたしは友達 <u>に</u> 本をあげました。
相手	授与者			わたしは加藤さん <u>に</u> 時計をもらいました。
対象	行為の相手	対する相手	動作・作用の向けられる対象	社長 <u>に</u> 会う。
	働きかけの対象	動作の対象		学生 <u>に</u> 教える。
	行為の対象	状態の対象	動作・作用の行われ方・状態	注目 <u>に</u> 値する。
	随伴の対象			彼 <u>に</u> ついて行く。
目的	目的	動作の目的	動作・作用の目的	映画を見 <u>に</u> 行く。
原因	原因	動作の原因・理由	動作・状態の原因・理由	勉強 <u>に</u> 苦しむ。
	受身の対象	受身の相手	受動作の出処	父 <u>に</u> ほめられる。
		使役の相手		学生 <u>に</u> 行かせる。
動作主	能力の主体		動作・状態の内容	わたし <u>に</u> はそれはできない。
	距離的な位置		比較のもとになる事物	わが家は学校 <u>に</u> 近い。
	比較の基準			太郎は次郎 <u>に</u> 比べて背が高い。

1) <表 1 >は先行研究において「に」がどのように分類されているのかを比較したものである。油谷(2005)は「に」に対応する韓国語に着目して「に」の分類を行っているので表に含めなかった。

<表1>を見ても先行研究において格助詞「に」の意味機能が多様で、また研究者によって分類に少しずつ差異があることがわかる。

日本語の格助詞「に」と韓国語の格助詞との対応関係についての研究は朴奉相(1998)、油谷(2005)などがある。朴奉相(1998)は日本語の助詞「に」と機能的に同じ部分があり、混同し易い韓国語の助詞 [에]、[에게]、[께]、[한테]、[(으)로]について対照分析を行い、助詞「に」とこれらの助詞がどのように意味領域を共有するのかを考察している。同氏は「に」を①存在の場所、②動作・作用の時、③動作の対象、④動作の目的、⑤動作の原因・理由、⑥到達点・到着点、⑦状態の対象、⑧変化の結果、⑨対する相手、⑩受身の相手、⑪使役の相手の11項目に分類している。そのうち「に」が[에]だけ使われる範疇は①存在の場所、②動作・作用の時、⑦状態の対象であるとし、[(으)로]だけが使われる範疇は⑤動作の原因・理由、[에게]だけが使われる範疇は⑪使役の相手であると述べている。また、「に」に対応する韓国語の助詞が二つ以上ある場合で[에]、[에게]、[께]、[한테]が使われる範疇は③動作の対象、[에]、[(으)로]が使われる範疇は⑥到達点・到着点、[에]、[에게]、[(으)로]が使われる範疇は⑩受身の相手であると述べている。朴奉相(1998)では「に」と混同し易い韓国語の助詞として[에]、[에게]、[께]、[한테]、[(으)로]のみを挙げているが、本調査では「に」の翻訳文に[에]、[에게]、[한테]、[(으)로]の他にも[에서]、[가/이]、[와/과]、[하고]、[를/을]も現れた。次に、油谷(2005)は日本語の格助詞「に」に該当する韓国語の格助詞として以下のものを挙げている。

- (1) 韓国語では他動詞になるもの：만나다(会う), 타다 (乗る), 따르다(従う), 향하다(向かう), 닮다(似る)など
 駅に行く途中で友人に会った。 역에 가는 길에 친구를 만났다.
- (2) 所在：에(에게/한테)
 鞆の中に財布があります。 가방 속에 지갑이 있어요.
- (3) 時：에
 今日は6時に起きました。 오늘은 6시에 일어났다.
- (4) 到着点：에(에게/한테)
 その一行は駅に到着した。 그 일행은 역에 다다랐다.
- (5) 動作名詞+に+行く：動作名詞+를/을 가다
 次の日曜日に登山に行きます。 다음 일요일에 등산을 갑니다.
- (6) 慣用および(4)(5)の強調：를/을
 카프스니는 9歳でお嫁に行った。 갑순이는 9살에 시집을 갔다.
- (7) 転成：가/이, (으)로
 毛虫が蝶になった。 벌레가 나비가 되었다.

- (8) 方向：(으)로
上に昇る。 위로 올라간다.
- (9) 様態：(으)로
計画を積極的に推進した。 계획을 적극적으로 추진했다.
- (10) 決定：(으)로
何になさいませうか。 무엇으로 하시겠어요?
- (11) 可能動詞の主語：가/이,(로서)는
お前にはこの問題は解けまい。 넌 이 문제를 풀 수 없겠지.
- (12) ~に等しい：와/과/하고 같다
泥棒にも等しい行為 도둑질과도 같은 행위
(*泥棒とも)

油谷(2005)においては朴奉相(1998)では言及されていなかった[를/을]や[가/이]、[와/과]との対応関係についても言及されている。しかし、油谷(2005)では日本語の「に」の機能のうち、受動や授受といった機能については述べられていない。本稿では朴奉相(1998)、油谷(2005)で言及されていない事柄についても考察の対象とし、「に」が韓国語でどのように表現されているのかを考察する。

3. 考察対象・方法と分析

分析の対象として使用した小説は1992年に新潮文庫から出版された『夏の庭-The Friends-』である。著者である湯本香樹実は1959年に東京で生まれ、東京音楽大学を卒業している。『夏の庭 The Friends』は彼女の処女作である。この作品は日本児童文学者協会新人賞、児童文芸新人賞を受賞し、海外でもボストン・グローブ=ホーン・ブック賞やミルドレッド・バachelダー賞を受賞している。また、映画化・舞台化されたほか、数十カ国で翻訳出版されており、文学的にも優れた作品である。韓国語への翻訳者である이선희は1962年、韓国ソウルで生まれ釜山大学日語日文学科を卒業している。主な訳書に原田宗典氏の『十九、二十』、『醜い花』、東野圭吾の『秘密』などがある。小説以外にも『借りぐらしのアリエッティ』、『もののけ姫』などアニメーションや映画の翻訳も手がけている。

考察の方法は小説中に現れた「に」を含む文985例を分析対象とし、「に」がそれぞれどのような助詞に翻訳されているのかを調査した。まず、『夏の庭-The Friends-』の韓国語の訳書において「に」がどのような助詞に翻訳されているのかをまとめると<表 2 >のようになる。

〈表 2〉 小説『夏の庭-The Friends-』における「に」の分布

	에	에게	에서	가/이	와/과	하고	한테	러	를/을	(으)로	省略・意識	合計
合計	325	61	11	64	11	3	16	14	51	141	288	985
割合 (%)	33	6.2	1.1	6.5	1.1	0.3	1.6	1.4	5.2	14.3	29.2	100

小説『夏の庭-The Friends-』に現れた「に」は全体で985例存在し、そのうち[에]に訳されたものは325例あり、全体の33%を占める。次に割合が高かったものは[(으)로]で141例あり、全体の14.3%を占める。本稿では、先行研究で「に」との対応関係が述べられていなかった、以下の点について考察を行う。

〈1〉 「に」が[에서]に翻訳された場合

〈2〉 受動表現で「に」が[가/이]、[를/을]に翻訳された場合

まず、「〈1〉「に」が[에서]に翻訳された場合」について考察を行う。朴奉相(1998)や油谷(2005)では「に」との対応関係が言及されていないもので、本調査では[하고]、[에서]が現れた。以下の1)から4)はその用例の一部である。

- 1) すると、あ、あのおじいさんに似てる、なんて思うんだ。
그러면, '아, 그 할아버지 하고 닮았어,' 하는 생각이 드는 거야.
- 2) やっぱりこっちに似てるかな、なんちゃって
어, 이 할아버지 하고 닮았나? 하는 생각도 들고.
- 3) そこに立ってろ
자리에서 일어나 있어.
- 4) ローブはぼくの目の高さくらいにたわんでいる。
빨랫줄은 눈 높이 정도에서 휘어져 있었다.

「に」が[하고]に訳された例は3例のみである。[하고]は意味機能的に日本語の「と」に該当する助詞であるが、日本語の場合でも「会う」や「似る」といった動詞では共起する助詞として「に」と「と」の両方が許容される。また、油谷(2005)では「만나다(会う)」、「닮다(似る)」は「(1)韓国語では他動詞になるもの」に分類されている動詞であり、[를/을]と共起すると述べられている。今回の調査では「に」が[하고]に訳された用例が少なく、比較や考察が十分にできないため「会う」、「似る」といった動詞と、助詞「に」、「と」そして韓国語の助詞[를/을]、[하고]との関係については今後より多くの

用例を収集し、考察を行いたい。

次に「〈1〉「に」が[에서]に翻訳された場合」について考察を行う。本調査では「に」が[에서]に訳された例が11例現れた。油谷(2005)は[에서]について動作の行われる場所を表し、日本語の助詞では「で」に該当すると述べている。野田(1991)では場所を表す「に」は基本的に「ある」や「いる」といった存在を表す動詞に付き、存在の場所を表し、「で」は「食べる」、「言う」といった動作や出来事を表す動詞に付いて、その動作を行う場所や出来事が起きる場所を言うときに使用すると述べている。しかし、「に」と「で」は置き換えが可能な場合も多く、日本語の学習者にとっても習得が困難な点の一つである。3)、4)以外で「に」が[에서]に翻訳されていた用例は以下の通りである。

- 5) 三十分後にここに集合
삼십 분 후에 여기에서 모여!
- 6) 夜の台所に立ったまま、夢中で梨をかじるおかあさんを見ていると、
밤에 부엌에서 정신없이 배를 먹는 엄마를 보고 있으니,
- 7) 海にもぐったりして、四日間を過ごすのだ。
나홀 동안 그곳에서 축구 연습도 하고 바다에서 수영을 하기도 했다.
- 8) 目や口にうじがわいてうごめいている。
눈과 입에서는 구더기가 꿈틀거렸다.
- 9) 曲がりくねったべとべとの木の根の上に、鶏のようにうずくまって眠った。
구불구불하고 질척질척한 나무 뿌리 위에서 닭처럼 몸을 웅크린 채 잠을 잤다.
- 10) 蚊とり線香のお皿に載っていたマッチで火をつけた。
모기향을 받쳐 놓은 접시에서 성냥을 집어 들고 불을 붙였다.
- 11)びっくりして目を覚ますと、豆電球の薄暗い光の中に、古くてしみだらけの木の天井が見えた。
나를 부르는 소리에 깜짝 놀라서 눈을 뜨니, 갓 없는 전구의 침침한 불빛 속에서 얼룩투성이의 오래된 나무 천장이 보였다.
- 12)こんなに間近に見たのは初めてだった。
할아버지의 얼굴을 이렇게 가까이에서 본 것은 처음이었다.
- 13) 突然、河辺がベンチの上に仁王立ちになった。
갑자기 모리가 벤치 위에서 벌떡 일어섰다.

これらの用例は「に」を「で」に置き換えても問題がないと翻訳者が判断し、[에서]を使用した可能性が考えられる。これを確かめるため、「に」が[에서]に翻訳されている用例について日本語の場合は「に」を「で」に、韓国語の場合は[에]を[에서]に置き換え

でも問題がないかを調査した。調査内容は日本語母語話者9名、韓国語母語話者44名を対象にアンケート2)を行った。アンケートは用例の問題となる助詞部分を括弧にし、括弧の中に日本語の場合は「に」と「で」のどちらを入れるのが正しいかを記入してもらったものである。両方とも問題がない場合には両方に丸を記入してもらった。韓国語の場合は翻訳文を使用し、[에]と[에서]で同じアンケートを行った。アンケートの結果をまとめると表3>、<表4>のようになる。<表3>は日本語についてのアンケート結果で、<表4>は韓国語についてのアンケート結果である。また、用例の右横の数値は被験者がそれぞれの助詞について解答した割合である。「○」は文法的、意味的に問題がない場合、「×」は文法的、意味的に問題があると答えた被験者の割合を表す。

<表3> 日本語についてのアンケート

番号	用例	に(%)		で(%)	
		○	×	○	×
3)	そこ()立ってろ!	100	0	77.8	22.2
4)	ロープはぼくの目の高さくらい()たわんでいる。	55.6	44.4	88.9	11.1
5)	三十分後にここ()集合	100	0	66.7	33.3
6)	夜の台所()立ったまま、夢中で梨をかじるおかあさんを見ると、	77.8	22.2	44.4	55.6
7)	海()もぐったりして、四日間を過ごすのだ。	100	0	11.1	88.9
8)	目や口()うじがわいてうごめいている。	100	0	22.2	77.8
9)	曲がりくねったべとべとの木の根の上()、鶏のようにうずくまって眠った。	66.7	33.3	88.9	11.1
10)	蚊とり線香のお皿()載っていたマッチで火をつけた。	100	0	0	100
11)	びっくりして目を覚ますと、豆電球の薄暗い光の中()、古くてしみだらけの木の天井が見えた。	88.9	11.1	55.6	44.4
12)	こんなに間近()見たのは初めてだった。	44.4	55.6	100	0
13)	突然、河辺がベンチの上()仁王立ちになった。	55.6	44.4	88.9	11.1

2) アンケートの被験者の内訳は以下の通りである。

日本語を母語とする被験者：10代後半から30代前半、男性2名、女性7名。出身地は名古屋、大阪、高知、長崎、熊本である。年齢、性別、出身地による差異は見られなかった。

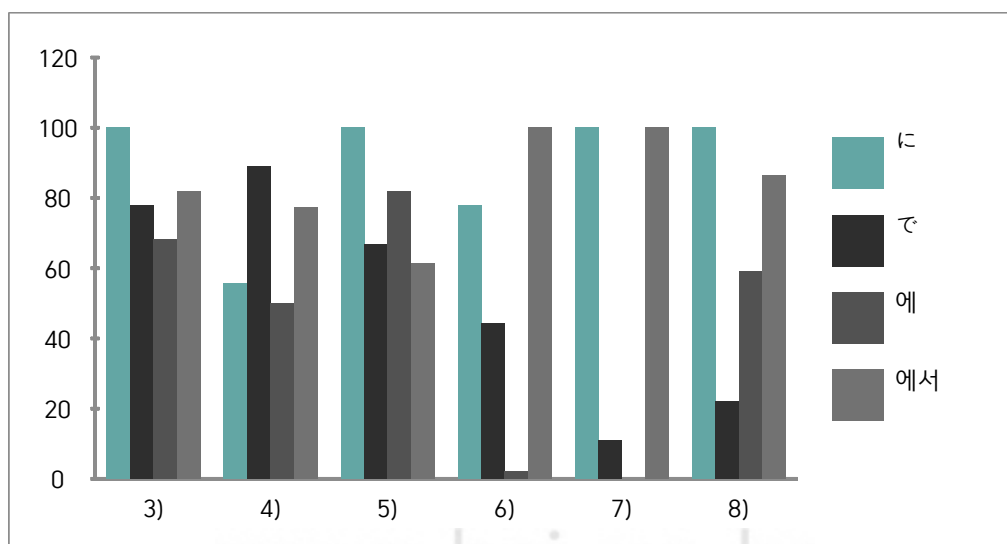
韓国語を母語とする被験者：10代後半から20代、男性19名、女性25名。出身地は수원, 부천, 인천, 안산, 오산, 서울, 평택, 제천, 김포, 천안等である。こちらも年齢、性別、出身地による差異は見られなかった。

〈表 4〉 韓国語についてのアンケート

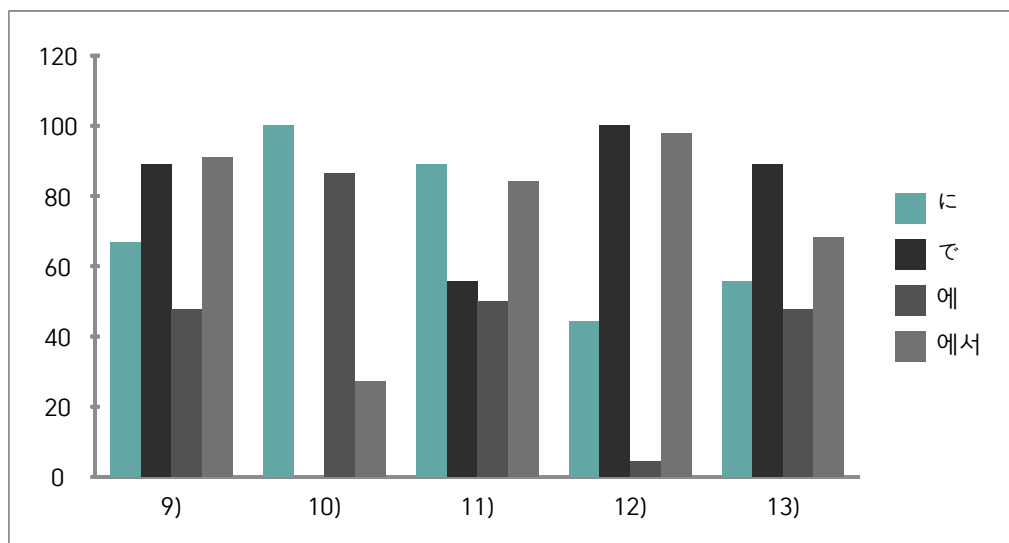
番号	用例	에(%)		에서(%)	
		○	×	○	×
3)	자리() 일어나 있어!	68.2	31.8	81.8	18.2
4)	빨랫줄은 내 눈 높이 정도() 휘어져 있었다.	50	50	77.3	22.7
5)	삼십 분 후에 여기() 모여!	81.8	18.2	61.4	38.6
6)	밤에 부엌() 정신없이 배를 먹는 엄마를 보고 있으니,	2.3	97.7	100	0
7)	나를 동안 그곳에서 축구 연습도 하고 바다() 수영을 하기도 했다.	0	100	100	0
8)	눈과 입() 구더기가 꿈틀거렸다.	59.1	40.9	86.4	13.4
9)	구불구불하고 질척질척한 나무 뿌리 위() 닭처럼 몸을 웅크린 채 잠을 잤다.	47.7	52.3	90.9	9.1
10)	모기향을 받쳐 놓은 접시() 성냥을 집어 들고 불을 붙였다.	86.4	13.6	27.3	72.7
11)	나를 부르는 소리에 깜짝 놀라서 눈을 뜨니, 갓 없는 전구의 침침한 불빛 속() 얼룩투성이의 오래된 나무 천장이 보였다.	50	50	84.1	13.6
12)	할아버지의 얼굴을 이렇게 가까이() 본 것은 처음이었다.	4.5	95.5	97.7	2.3
13)	갑자기 모리가 벤치 위() 벌떡 일어섰다.	47.7	52.3	68.2	31.8

次に、日本語と韓国語のそれぞれの助詞の許容率を比較したものが〈図 1〉と〈図 2〉である。〈図 1〉と〈図 2〉は文法的、意味的に問題がない場合である「○」の数値を基に作成している。また、〈図 1〉は用例3)から8)まで、〈図 2〉は用例9)から13)までのものである。棒グラフは左から「に」、「で」、[에]、[에서]の数値を表す。

〈図 1〉 日本語「に」、「で」と韓国語[에]、[에서]の許容率の比較 1



＜図 2＞ 日本語「に」、「で」と韓国語[에]、[에서]の許容率の比較 2



＜図 1＞、＜図 2＞を見ると、日本語の「に」、「で」と韓国語の[에]、[에서]の割合は全く同じではないが4)、5)、9)、13)は日本語と韓国語で類似した傾向が見られた。さらに4)、5)、9)、13)の中で5)以外の用例では「に」、[에]よりも「で」、[에서]の方が正しいとする割合が高いことがわかる。つまり、日本語の場合、小説で使用された「に」が必ずしも一般的に使用されているわけではなく、小説上の表現、あるいは作者の主観が入っている可能性が高い。その他12)も「に」よりも「で」の許容率が高かった。5)はその逆で「で」、[에서]よりも「に」、[에]の許容率が高かった例である。

また、日本語の用例で「に」のみが許容される割合が高かったのは7)、8)、10)である。10)については被験者全員が「に」のみが可能で「で」は非文であるとし、7)については約90%の被験者が「で」を非文としている。さらに、7)では反対に[에서]のみが許容されるという結果が表れた。7)は日本語と韓国語で先行名詞は同じであるが、述語や文章の前後関係が意識されているため、このような結果が生じたと考えられる。8)では約80%の被験者が「で」を非文としているが、韓国語では[에]は約60%、[에서]は約90%の被験者が「○」を選択しており、日本語では「に」のみ許容されるが、韓国語では[에]、[에서]の両方が許容される場合である。10)の場合、[에]の許容率は90%近くに達し、[에서]は約70%の被験者が非文であると回答している。3)、5)、9)、11)は「に」と「で」、[에]と[에서]の両方が問題なく使用できると答えた被験者が多く、「に」と「で」、[에]と[에서]の置き換えが可能である。「で」を用いた場合は「に」を用いた場合よりも、場所に焦点が当てられた表現になる。これは先行研究でも述べられている通り、

日本語の「で」と韓国語の[에서]の共通する意味機能である。翻訳者が「に」を[에서]に訳した理由は解釈の際に動作が行われる場所をより重視したためであると考えられるが、真意は確かではなく翻訳者によって翻訳に差異が生じる可能性も高い。

翻訳者による差異を明らかにするために、9名の韓国語を母語とする日本語学習者に問題となる部分を含む小説の文章を翻訳してもらった。翻訳を依頼したのは日本語能力検定 N1 を持つ韓国語を母語とする日本語学習者を対象とした。翻訳は[に]が[에서]に訳されていた、11例のうち3)、4)、10)、12)、13)を抜粋した。まず3)について、

9名中7名の被験者が翻訳で[에]を使用しており、その他の被験者のうち1名は[에서]の縮約形である[서]を用い、もう1名は助詞を省略していた。次に、4)では[에]を使用した被験者が4名、[(으)로]、[까지]を使用した被験者がそれぞれ2名ずつで[에서]を使用した被験者が1名であった。10)では、被験者全員が[에]を用いて翻訳を行っていた。12)では[에서]の縮約形[서]を使用した被験者が6名、[에서]を使用した被験者が1名、助詞を省略した被験者が1名、[가깝게]を使用した被験者が1名であった。最後に13)では、8名が[에]を用い、[에서]を用いたのは1名だけであった。これらの結果を見ると[에서]を使用した被験者は少なく、[에]やその他の助詞を使用した場合が多かった。つまり、今回の調査で現れた[에서]は翻訳者の主観が含まれている可能性が高い。しかし、12)では[에서]の縮約形である[서]を使用した被験者も多く、「に」と[에서]の対応関係についてはより多くの用例を集め、韓国語母語話者に対しアンケートやインタビュー調査を行い、さらに検討していきたい。

次に、「〈2〉受動表現で「に」が[가/이]、[를/을]に翻訳された場合」について考察を行う。朴奉相(1998)は「受身の相手」の範疇として[에]、[에게]、[(으)로]を挙げていたが、本調査ではそれ以外にも[가/이]、[를/을]との対応関係が現れた。14)から23)は原文で受動表現の文章の訳において[가/이]が用いられた用例である。

- 14) おじさんに暗い声でそうされると、ぼくはほんとにしゅんとなってしまった。
할아버지가 어두운 목소리로 그렇게 말하자 나는 정물로 풀이 죽었다.
- 15) 先生に「謝恩会でも、やってくれ」とまで言われて、
선생님이 사은회에서 한번 해 보라고 말해서
- 16) 杉田にそう言われて、
스기타가 그렇게 말하자,
- 17) 「文句言うな。オレたちが、がっちりディフェンスしてやるから」河辺にそう言われると、
山下は黙った。
“불평하지 마! 우리가 잘 막아 줄 테니까.” 모리가 그렇게 말하자 하라는 아무 말이 없었다.

- 18) オレ、おかあさんに再婚したいって言われた時、最初はいやだって言ったんだ。
“난 엄마가 재혼하고 싶다고 했을 때, 처음에는 싫다고 그랬어.
- 19) 人に見られていると張りきるといのは、ある。
누구나 다른 사람이 보고 있을 땐 긴장이 되어 열심히 하게 된다.
- 20) 昼間見たお墓も今は、暗闇の中で夜の風に吹かれているだろう。
낮에 본 무덤에도 밤바람이 불고 있을 것이었다.
- 21) 教室の扉を探そうとしてうろうろしているところを、杉田と松下にさんざんからかわれ、
모리가 당황해서 교실문을 찾아 허둥대자, 스키타와 마쓰시타가
낄낄거리며 놀려 댔다.
- 22) また今日もここにいるのを杉田たちに見られるのはまずい、そう山下が言いだしたのだ。
“오늘도 우리가 여기에 있는 것을 스키타가 본다면 아주 곤란해질 거야.”
하라가 말했다.
- 23) 口もとはしわにかこまれた裂け目のようで、
입가에 주름이 깊었고

受動文での「に」が[が/이]と対応する例は10例現れ、その内の半分は述語部分が「言われる」であった。14)から18)は述語部分が「言われる」の用例である。朴世美(2011)は「言われる」の韓国語は[듣다(聞く)], [말하다(話す)], [-라고 하다/말하다 (-と言う)]のいずれかに該当すると述べている。14)から18)を見ると、韓国語の翻訳文において述語部分が[-라고 하다/말하다]の形をとっていることがわかる。しかし、朴世美(2011)ではこれらの述語成分と助詞の関係については述べられていない。

次に、24)から29)は受動表現の文の訳において[를/을]が用いられた用例である。

- 24) 雨が窓に叩きつけられている。
비가 창문을 세차게 때렸다.
- 25) やっぱり尾行に気づかれたのかな
역시 미행을 눈치 챈 거야.
- 26) 近所のおばさんたちの視線にさらされながら、それでもぼくたちはおじいさんを見守っていた。
이웃집 아줌마들의 시선을 받으면서도 우리는 할아버지를 끝까지 지켜보았다.
- 27) そいつが川風に吹かれて、喜びと興奮のあまりオシッコをもらすほど
驅けまわっていたなんてことは、
그때는 그 개가 강바람을 맞으면서 너무나 흥분한 나머지 어쭙을
쌀 정도로 뛰어다녔다는데,

- 28) どうしても一杯ごちそうしたいと言うスポーツシャツに連れられて、
 꼭 술 한 장 사겠다고 하는 그 아저씨를 따라서
- 29) そんな不安に今でも襲われるのだ。
 그런 불안을 지금도 느끼고 있다.

受動の意味機能の「に」が[를/을]に翻訳されている用例は6例現れた。それらの例を見ても、[가/이]の場合と同じく受動形を使用せずに翻訳されている。また、日本語だと非文になる例が現れた。28)は直訳すると「*是非酒を一杯買いたいというそのおじさんをついて」となる。これは油谷(2005)の(1)でも指摘されているように、[따르다]は韓国語で他動詞であるため[를/을]と共に起する。述語部分が受動形で助詞が[가/이]や[를/을]の場合は全て受動形を使用せずに翻訳されている。一方で、同じく述語部分が受動形の文でも助詞[에]が翻訳文で使用されている場合には、翻訳文での述語部分も受動形をとっている場合が多かった。30)から32)は原文が受動文で韓国語の翻訳で[에]が用いられている用例の一部である。

- 30) 今ここで落ちたら、電車につぶされて必ず死ぬって考えた。
 지금 여기에서 떨어진다면 분명히 전철에 깔려서 죽을 거라는 생각이 드는 거야.
- 31) 河辺の目は、お刺身に吸い寄せられている。
 모리의 눈은 생선회에 빨려 들어가 있었다.
- 32) 巨大な怪物に飲み込まれてしまった外の様子をながめていた。
 괴물_에 먹혀 버린 바깥 세상을 보았다.

受動表現の文章で[에]が用いられている用例は19例だが、そのうち16例は述語部分が30)から32)のように受動の意味を持つ動詞が用いられていた。このように日本語の文章を韓国語に翻訳した文において「に」が受動の意味機能である場合に、いくつかの傾向があることがわかった。

4. まとめ

本稿では韓国語を母語とする日本語学習者にとって習得が困難とされる助詞の「に」について小説を対象に考察を行った。考察の結果、「に」と韓国語の助詞で朴奉相(1998)や油谷(2005)では言及されていない[에서]、[하고]との対応関係が見られた。[에

서]について、日本語の「に」と「で」、韓国の[에]と[에서]をそれぞれ入れ替えても文章が不自然にならないかを確かめるため、アンケートを行った。アンケートの結果、11例中4例では「に」より「で」の許容率が高く、同じ用例で韓国語の場合は[에서]の許容率が高かった。つまり日本語の場合、小説で使用された「に」が必ずしも一般的に使用されているわけではなく、作者の主観が入った表現である可能性が高いことがわかった。また、ほとんどの用例は「に」と「で」、[에]と[에서]の両方が使用可能だという結果が現れた。日本語と韓国語でアンケートの数値に大きな差異が現れた場合は、韓国語の翻訳で使用された動詞や文の前後関係が意識されていたため、それらが原因となって数値が変化したと考えられる。また、翻訳者による差異を確かめるための調査では、翻訳で[에서]が使用される場合はほとんど現れず、[에]やその他の助詞を使用して翻訳するケースが大多数であった。つまり、今回の調査で現れた[에서]は翻訳者の主観が含まれている可能性が高い。この点についてより多くの用例を集め、韓国語母語話者に対しアンケートやインタビュー調査を行い、さらに調査を行いたい。

受動の意味機能については朴奉相(1998)が「に」との対応関係を指摘した[에]、[에게]、[(으)로]以外にも[가/이]、[를/을]との対応関係が現れた。受動の文で[가/이]が用いられている場合は、日本語の文で「言われる」を述語とする傾向が見られた。また、原文が受動文で翻訳文において[가/이]、[를/을]が用いられている場合、訳文では受動形が使用されていないのに対し、[에]で翻訳されている場合には韓国語の翻訳文においても述部が受動形の場合が多く現れた。

今回の調査では一冊の小説のみを考察対象としたため、翻訳者の癖や主観が影響している可能性がある。今後、様々な小説、或いは別のジャンルの文も考察対象とし、今回考察した内容について調査を継続して進めていきたい。

【用例出典】

湯本香樹実(1992)『夏の庭』,新潮文庫.

湯本香樹実(2005)『여름이 준 선물』,이선희訳,푸른숲

【参考文献】

< 韓国語の文献 >

朴世美(2011)「韓国小説의 日本語翻訳本을 통해서 본 日本語 受動表現에 관한研究」, 東国大学教育大学院日語教育専攻修士学位論文.

朴廷根(1999)「受動表現을 中心으로 한 日・韓國表現構造의 対象研究: 氷点의 翻訳作品을 中心으로」 『日語教育』 十七輯, pp.273-320.

< 日本語の文献 >

李翊燮・李相億・蔡琬(2004)『韓国語概説』, 大修館書店.

朴奉相(1998)「格助詞「に」「で」の韓国語との対照研究」 『日語教育』 十五輯, pp.389-411.

朴善姫(1998)「韓・日両語の格助詞「에」と「に」の对象分析」, 朝鮮大学校教育大学院1998年度教育学碩士学位論文.

鈴木一彦・林巨樹編『品詞別日本語文法講座 9 助詞』, 明治書院.

梅田博之・村崎恭子(1982)「現代朝鮮語の文構造」 『講座日本語学10外国語との対照 I』, 明治書院.

久保田美子(1993)「第二言語としての日本語の縦断的習得研究—格助詞「を」「に」「で」「へ」の習得過程について—」 『日本語教育』 第82号, pp.72-85.

迫田久美子(2001)「学習者の誤用を生み出す言語処理のストラテジー(1) —場所を表す「に」と「で」の場合—」, *Bulletin of the Department of Teaching Japanese as a Second Language, Hiroshima University*, No.11, pp.17-22

菅井三実(1999)「格助詞「に」の意味特性に関する覚書」, 兵庫教育大学, HEART.

杉村泰(2002)「イメージで教える日本語の格助詞」 『言語文化研究叢書』 1, 名古屋大学言語文化国際言語文化研究科, pp.39-55.

野田尚史(1991)『はじめての人の日本語文法』, くろしお出版.

松田由美子・斎藤俊一(1992)「第 2 言語としての日本語学習に関する縦断的研究」 『世界の日本語教育』 2, 国際交流基金日本語教育センター, pp.129-156.

油谷幸利(2005)『日韓対照言語学入門』, 白帝社.

要 旨

本稿では日本語の格助詞「に」に対応する韓国語の助詞について小説の文を分析対象とし、日本語の助詞「に」が韓国語の翻訳書においてどのように翻訳されているのかを調査し、またそれらの助詞の特徴について考察を行った。

小説中に現れた「に」を含む文は985例存在した。本調査では先行研究では「に」との対応関係が言及されていなかった[하교]や[에서]も現れた。そのうち[에서]との対応関係に着目し、いくつかのアンケートを行った。アンケートの結果、ほとんどの例で「に」を「で」または[에서]を[에]に置き換えても問題がないという結果が現れ、今回の調査で「に」が[에서]に翻訳された用例は翻訳者の主観が含まれている可能性が高いことがわかった。しかし、11例のうち1つの例では翻訳のアンケートにおいて[에서]の縮約形である[서]を用いて翻訳されている例も存在し、「に」と[에서]の対応関係についてさらに調査が必要である。

受動の意味機能については先行研究で「に」との対応関係が指摘されている[에]、[에게]、[(으)로]以外にも本調査では[가/이]、[를/을]との対応関係が見られた。受動の文で[가/이]が用いられている場合は、日本語の文で「言われる」を述語とする傾向が見られた。また、受動文で翻訳文において[가/이]、[를/을]が用いられている場合、翻訳文では受動形が用いられていないのに対し、[에]で翻訳されている場合には韓国語の翻訳文においても述部が受動形の場合が多く、日本語の受動文の翻訳においていくつかの傾向が見られた。

キーワード：格助詞「に」、格助詞「で」、韓国語の助詞[에]、
韓国語の助詞[에서]、受動形

투 고 : 2013. 11. 30
1차 심사 : 2013. 12. 14
2차 심사 : 2014. 1. 4